

2.1. 耳鼻咽喉科 臨床研修プログラム (選択)

1. 研修目標

一般的な臨床医が身につけるべきである耳鼻咽喉科の初步的な診察、検査、手術などを経験する。専門的な診察の概要を理解し、救急として取り扱う機会の多い鼻出血、急性中耳炎、めまい、扁桃炎などに対する適切な初期対応ができるようになることを目標とする。

2. 研修期間 2週～40週

3. プログラム指導者と参加施設

プログラム指導者 耳鼻咽喉科 久世 文也
基幹病院 中部国際医療センター

4. 到達目標

- 1) 耳鼻咽喉科の基本的診察法の修得
- 2) 耳鼻咽喉鏡による診察法
- 3) 鼻咽喉ファイバースコピーよる診察法
- 4) 基本的な耳鼻咽喉科の診断と理解
- 5) 耳疾患：急性中耳炎、慢性中耳炎、滲出性中耳炎、外耳炎、突発性難聴、めまい
- 6) 副鼻腔疾患：アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎
- 7) 咽喉頭疾患：扁桃炎、咽喉炎、声帯ポリープ
- 8) 唾液腺疾患
- 9) 顔面神経麻痺、睡眠時無呼吸症候群
- 10) 悪性腫瘍
- 11) 耳鼻咽喉科の基本的検査法の修得と理解
- 12) 各種聴力検査
- 13) 簡易平衡機能検査
- 14) アレルギー検査
- 15) 耳鼻咽喉科領域のX線、CT、MRI
- 16) 耳鼻咽喉科の基本的処置法の修得
- 17) 耳処置、鼻処置、咽喉頭処置、鼓膜切開
- 18) 救急処置（鼻出血止血処置、めまい患者に対する処置、耳鼻咽喉異物除去）
- 19) 耳鼻咽喉科領域の手術の適応と手術法の理解
- 20) 口蓋扁桃摘出術
- 21) アデノイド切除術
- 22) 鼻甲介切除術
- 23) 副鼻腔根本術
- 24) 声帯ポリープ切除術

5. 指導体制

- 1) 研修医は、常に指導医のもとに行動することを原則とする。特に危険を伴うと考えられる検査、処置、および手術は担当指導医の看護下で行う。

2) 救急患者が搬入されたときは、出来るだけその初期診療から関係を持ち診療する。

6. 方略

1. 指導医の外来診療に同席し、耳鼻咽喉科の基本的診察法（耳鼻咽喉鏡による診察法、鼻咽喉ファイバースコピによる診察法）を習得する。
2. 耳疾患（急性中耳炎、慢性中耳炎、滲出性中耳炎、外耳炎、突発性難聴、めまい）、副鼻腔疾患（アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎）、咽喉頭疾患（扁桃炎、咽喉炎、声帯ポリープ）、唾液腺疾患、顔面神経麻痺、睡眠時無呼吸症候群、悪性腫瘍について学ぶ。
3. 各種聴力検査、簡易平衡機能検査、アレルギー検査、耳鼻咽喉科領域のX線、CT、MRIの読影を習得する。
4. 耳処置、鼻処置、咽喉頭処置、鼓膜切開を習得する。
5. 鼻出血止血処置、めまい患者に対する処置、耳鼻咽喉異物除去を習得する。
6. 口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術、鼻甲介切除術、副鼻腔根本術、声帯ポリープ切除術の適応と手術法を理解する。手術に積極的に参加し、手術の実際を体験する。
7. カンファレンスに積極的に参加し、症例発表やディスカッションを行う。

7. 評価

指導医は、自己評価結果を隨時点検し、研修医の到達目標を援助する。

8. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	手術	外来
午後	自習	外来手術・検査	外来手術・検査	手術	手術
夕方		夕回診	夕回診	夕回診	夕回診